

## 特別活動

### 1 特別活動の目標と各活動・学校行事の目標との関連

特別活動は、ホームルーム活動、生徒会活動及び学校行事の各内容から構成されている。これらの内容は、それぞれ独自の目標と内容をもつ教育活動であるが、最終的には特別活動の目標を目指して行われるものである。したがって、特別活動の目標と各活動・学校行事の目標には密接な関係があることについて理解するとともに、十分考慮し、関連を図って計画し、指導することが大切である。

### 2 ホームルーム活動の内容

特別活動のうちホームルーム活動については、高等学校学習指導要領において、学校における生徒の基礎的な生活集団として編成したホームルームを単位として、ホームルームや学校の生活の充実と向上、生徒が直面する諸課題への対応に資する活動を行うこととされており、次の(1)、(2)、(3)の活動内容に整理され、それぞれの活動内容において、入学から卒業までを見通して、取り扱うものとして複数の項目が示されている。

#### 【ホームルーム活動の内容】

|   |  |
|---|--|
| (1) ホームルームや学校の生活づくり<br>ア ホームルームや学校における生活上の諸問題の解決<br>イ ホームルーム内の組織づくりと自主的な活動<br>ウ 学校における多様な集団の生活の向上   | キ 国際理解と国際交流<br>ク 心身の健康と健全な生活態度や規律ある習慣の確立<br>ケ 生命の尊重と安全な生活態度や規律ある習慣の確立  |
| (2) 適応と成長及び健康安全<br>ア 青年期の悩みや課題とその解決<br>イ 自己及び他者の個性の理解と尊重<br>ウ 社会生活における役割の自覚と自己責任<br>エ 男女相互の理解と協力<br>オ コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立<br>カ ボランティア活動の意義の理解と参画 | (3) 学業と進路<br>ア 学ぶことと働くことの意義の理解<br>イ 主体的な学習態度の確立と学校図書館の利用<br>ウ 教科・科目の適切な選択<br>エ 進路適性の理解と進路情報の活用<br>オ 望ましい勤労観・職業観の確立<br>カ 主体的な進路の選択決定と将来設計 |

これらは、相互に関連しており、生徒の実態や取り上げる題材等に応じて活動内容の相互の関連を図ることについても留意し、ホームルーム活動の個々の時間の充実はもとより、高校生活全体を見通して充実したホームルーム活動が進められるよう指導計画を立てることが重要である。

### 3 ホームルーム活動の年間指導計画の作成

ホームルーム活動は、学習指導要領で内容として示された(1)のアからウ、(2)のアからケ、(3)のアからカについて、入学から卒業までの間に年間指導計画に位置付ける必要がある。その場合、必要に応じて内容間の関連を図ったり、統合したりして、配当された時間の中でホームルーム活動の目標が達成できるように指導計画を作成することが大切である。また、学年ごとの内容の発展や深化についても配慮しなければならない。

#### 4 ホームルーム活動の各内容の指導

##### (1) 「ホームルームや学校の生活づくり」に関すること

この活動内容は、ホームルーム活動の基盤となるものであり、学校や地域、生徒の実態に応じて、取り上げる題材について工夫することが大切である。特に、高等学校入学当初においては、個々の生徒が、中学校における学校生活との違いを乗り越え、新しい学校生活に適応できるよう十分に配慮することが必要である。

各項目の題材としては、次のような例が考えられる。

|                           |  |  |
|---------------------------|--|--|
| ア ホームルームや学校における生活上の諸問題の解決 | <b>【題材例】</b><br>○生徒会活動や学校行事への参加や協力の問題<br>○ホームルームの組織や係活動の円滑な運営に伴う諸問題 など | <b>【展開例(ウ)】</b><br>生徒相互の話し合いや体験発表、上級生などの経験等も活用したガイダンス、地域の産業・文化・ボランティアなどの団体の人々や卒業生などを招いての話し合いなどを行う。 |
| イ ホームルーム内の組織づくりと自主的な活動    | <b>【題材例】</b><br>○ホームルーム内の組織づくりと役割の遂行<br>○自主的・自律的な活動やルールと集団生活の向上 など     |  |
| ウ 学校における多様な集団の生活の向上       | <b>【題材例】</b><br>○生徒会活動や学校行事への参加や協力<br>○多様な集団と活動の在り方 など                 |  |

##### (2) 「適応と成長及び健康安全」に関すること

この活動内容は、生徒一人一人が人間としての在り方生き方について幅広く探求し、心身の健康の保持増進に努め、豊かな人間性や個性の育成を図るとともに、社会の成員として必要とされる資質や能力を培っていくための最も基礎的なものである。

各項目の題材としては、次のような例が考えられる。

|                          |   |   |
|--------------------------|---|---|
| ア 青年期の悩みや課題とその解決         | <b>【題材例】</b><br>○自分が不安に感じること<br>○悩みとその解決方法 など           | <b>【展開例(イ)】</b><br>自らを振り返ると同時に、グループやホームルーム全体で話し合ったり、卒業生や社会人などの講話を通して他者の生き方に学んだりする。                |
| イ 自己及び他者の個性の理解と尊重        | <b>【題材例】</b><br>○自分の長所・短所<br>○友人への期待と励まし など             |   |
| ウ 社会生活における役割の自覚と自己責任     | <b>【題材例】</b><br>○集団生活・社会生活におけるルールやマナー<br>○公共の精神や規範意識 など | <b>【展開例(エ)】</b><br>アンケートやインタビューをもとに話し合ったり、新聞やテレビ等の資料をもとに話し合ったり討論したりする。                            |
| エ 男女相互の理解と協力             | <b>【題材例】</b><br>○男女相互の理解と協力<br>○異性交友の望ましい在り方 など         |   |
| オ コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立 | <b>【題材例】</b><br>○望ましい人間関係の在り方<br>○豊かな人間関係づくりと自己の成長 など   | <b>【展開例(カ)】</b><br>ボランティア活動の様々な場面や実際について生徒自身が調べ紹介したり、ボランティア活動に携わっている人や生徒のボランティア体験談などをもとに話し合ったりする。 |
| カ ボランティア活動の意義の理解と参画      | <b>【題材例】</b><br>○社会福祉活動<br>○環境保全・保護活動 など                |   |
| キ 国際理解と国際交流              | <b>【題材例】</b><br>○国際協調と豊かな国際交流<br>○国際貢献の在り方 など           |   |

|   |   |
|---|---|
| <p><b>ク 心身の健康と健全な生活態度や規律ある習慣の確立</b></p> <p>【題材例】<br/>○心の健康や体力の向上<br/>○ストレスへの対処と自己管理や規律ある習慣 など</p> | <p>[展開例(ケ)]<br/>事故の発生状況や危険箇所の調査結果や映像資料等をもとにした話合いや、「ひやり、はっとした」といった体験に基づく感想や発表、安全マップの作成、実技を通じた学習、ロールプレイングなどを行う。</p> |
| <p><b>ケ 生命の尊重と安全な生活態度や規律ある習慣の確立</b></p> <p>【題材例】<br/>○生命の尊重<br/>○防犯を含めた生活安全や交通安全 など</p>           |   |

(3) 「学業と進路」に関すること

この活動内容は、学ぶことと働くことを通した人間としての在り方生き方の自覚、日々の学習や進路を主体的に選択する能力の育成、望ましい勤労観・職業観の形成などについて取り上げていくものである。

各項目の題材としては、次のような例が考えられる。

|   |   |
|---|---|
| <p><b>ア 学ぶことと働くことの意義の理解</b></p> <p>【題材例】<br/>○自分のよさや得意なことを伸ばす学習<br/>○充実した人生と学習 など</p> | <p>[展開例(ア)]<br/>卒業生や上級生、地域の職業人、生涯学習に取り組む保護者などの体験談やインタビューを取り入れながら、自分の考えをまとめ、発表したり、話し合ったり、ディベートを行ったりする。</p>                 |
| <p><b>イ 主体的な学習態度の確立と学校図書館の利用</b></p> <p>【題材例】<br/>○学習意欲と学習習慣<br/>○自ら学ぶ意義や方法 など</p>    |   |
| <p><b>ウ 教科・科目の適切な選択</b></p> <p>【題材例】<br/>○選択教科・科目の理解と私の選択<br/>○先輩に学ぶ類型やコースの選択 など</p>  | <p>[展開例(ウ)]<br/>選択教科・科目をどのような視点で選択したらよいかを話し合ったり、どのような理由で、どのような類型、コースを選択しようとしているかを互いに発表し合ったりする。</p>                        |
| <p><b>エ 進路適性の理解と進路情報の活用</b></p> <p>【題材例】<br/>○自分を知る<br/>○職業と適性 など</p>                 |   |
| <p><b>オ 望ましい勤労観・職業観の確立</b></p> <p>【題材例】<br/>○職業と仕事<br/>○働くことの意義と目的 など</p>             | <p>[展開例(オ)]<br/>保護者や地域の職業人の職業や勤労に関わる体験を聞いたり、学校行事などでの事業所や福祉施設等における就業体験やボランティア体験などの事前、事後の指導として、調査、話合い、感想文の作成、発表を行ったりする。</p> |
| <p><b>カ 主体的な進路の選択決定と将来設計</b></p> <p>【題材例】<br/>○人生と生きがい<br/>○30年後の私など</p>              |   |

5 ホームルーム活動の内容の取扱いについての配慮事項等

ホームルーム活動については、次の事項に配慮して各内容を取り扱う必要があるほか、主としてホームルームごとにホームルーム担任の教師が指導することを原則とし、活動の内容によっては他の教師などの協力を得ることとされている。

- (1) 指導内容の特質に応じて、教師の適切な指導の下に、生徒の自発的、自治的な活動が効果的に展開されるようにするとともに、内容相互の関連を図るよう工夫すること。
- (2) よりよい生活を築くために集団として意見をまとめるなどの話合い活動や自分たちできまりをつくって守る活動、人間関係を形成する力を養う活動などを充実するよう工夫すること。
- (3) 学校や地域及び生徒の実態に応じて、取り上げる指導内容の重点化を図るとともに、入学から卒業までを見通して、必要に応じて内容間の関連や統合を図ったり、他の内容を加えたりすることができること。
- (4) 個々の生徒についての理解を深め、生徒との信頼関係を基礎に指導を行うとともに、生徒指導との関連を図るようすること。

## Topic

### 旅行・集団宿泊的行事における危機管理

特別活動の内容の一つである学校行事のうち、旅行・集団宿泊的行事において、フェリー等の交通機関を利用したり、野外での自然体験活動を行ったりする場合、天候や地理的、地形的な条件の影響を受け、不測の事故や災害が発生する可能性があることから、学校は次の事項に留意し、参加する生徒の安全確保に細心の注意を払う必要がある。

また、行事の実施後や、事故発生時の対応を行った後は、実施前や実施段階等の計画や指導などについて分析・評価を行い、必要に応じて次回の実施に向けた改善を図っていくことが大切である。

#### 実施前

- (1) **安全に配慮した活動計画の作成**
  - ・経路、交通機関等について、事前に十分調査し、検討する。特に、新しい経路や交通機関を選ぶ場合には、細心の注意を払い、より入念に検討する。
  - ・利用する交通機関（船舶など）の状況、特に避難経路や救命設備などを調査し、万一の事故や災害に備え、退避、救助等について確認しておく。
  - ・業者を利用する場合には、業者に任せきりにすることなく、学校が主体性をもって安全確認を行う。
- (2) **安全指導の徹底**
  - ・生徒に対して、活動の行程を説明するとともに、具体的な場면을例示しながら事故防止に向けた安全指導を徹底する。
  - ・フェリーなど船舶を利用する場合には、事前に、生徒に救命胴衣の装着方法を説明し、理解させる。
  - ・生徒用のしおりなどに避難経路や救命設備保管場所などを掲載し、避難の手順について生徒に周知徹底する。
- (3) **事前説明会の開催**
  - ・保護者に対して、活動内容や趣旨、指導体制、安全体制などについて詳しく説明し理解を得るとともに、必要に応じて生徒に関わる個別相談の機会を設定し、参加する生徒の健康状態等を把握する。
- (4) **関係機関との連携**
  - ・利用する交通機関の関係責任者と事前に連絡をとり、十分な打合せを行い、特に安全について確認する。
  - ・地元警察や医療機関など、関係機関と十分連携を図り、安全確保に努める。
- (5) **緊急体制の確立**
  - ・事故の発生に備え、引率教員の役割や伝達系統を明確にし、緊急事態が発生した場合に適切な措置をとることができる体制を事前に確立するとともに、気象情報や交通情報などの収集方法や、救助体制、緊急病院の有無などについて詳しく調査し、準備しておく

#### 実施段階

- (1) **避難経路、救命艇、救命胴衣等の確認**
  - ・フェリーなど船舶を利用する場合には、乗船後直ちに、避難経路や救命艇などの設置場所、救命胴衣の保管場所について、生徒に確認させる。
- (2) **生徒の人員確認と安全な行動の徹底**
  - ・交通機関による移動中は、引率者が責任をもって人員の掌握に努め、定員を守り、危険な行動をしないように注意する。
  - ・車内や船内では、デッキの移動など単独で行動することのないよう指導する。
- (3) **気象状況の把握**
  - ・気象状況等に十分に注意し、天候その他の異変の際には、安全確保のため予定を変更するなど、臨機応変の措置をとる。

#### 事故発生時

- (1) **状況の把握・対応**
  - ・参加生徒の人員を確認するとともに、生徒に動揺を与えないよう、冷静に対応する。
  - ・引率責任者は、学校へ事故の状況を報告するとともに、事故の状況によっては、旅行や集団宿泊の継続の可否、日程の一部変更について速やかに判断し、適切な措置を講ずる。
  - ・引率責任者を中心に、気象情報や運行再開の見通し等を確かめるとともに、状況に応じ、旅行取扱業者との連携により代替輸送の交通手段や宿泊場所、食事等を確保する。
- (2) **外部への対応**
  - ・保護者に対して、状況や今後の対応等について説明する。
  - ・状況を速やかに教育局等へ報告し、対応策等について指導・助言を受ける。
  - ・混乱を避けるため、報道機関や関係機関等への対応は、窓口を一本化し管理職が当たる。

参考：○「学校外で行われる教育活動における事故防止について」（平成26年6月13日付け教高第497号北海道教育庁学校教育局高校教育課長、義務教育課長及び特別支援教育課長通知）  
○「学校における危機管理の手引（改訂2版）」（平成25年3月北海道教育委員会発行）